

# 年間報告書 2007

同志社エコプロジェクト

DOSHISHA ECO PROJECT

2007

DOSHISHA ECO PROJECT

同志社大学京田辺校地省エネルギー推進委員会

同志社エコプロジェクト (DEP)

〒610-0394 京田辺市多々羅都谷1-3

ローム記念館 (RM) 223

TEL: 0774-65-7813

URL: <http://eco-pro.doshisha.ac.jp/>



この報告書は石油系溶剤の一部を大豆油に変えたインキを使用し、廃液による汚染がない水なし印刷方式を採用しています。



## Contents

- 02 DEP 概要
- 03 同志社大学環境憲章へのアプローチ
- 04 環境について考える。
- 06 DEP 活動報告 2007
  - オープニングイベント／ADAM祭／EVE
  - エココン／里山保全活動
- 12 ap bank 理事 見山謙一郎氏独占インタビュー！
- 16 アンケート「エコとしてますか」結果報告
- 18 新入生必見!! 特別企画「エコな一人暮らし提言～ある先輩の一日@京田辺～」
- 20 お知らせ
- 21 編集後記

## プロローグ

DEPの1年目が終わりました。

地球の環境について、

大切なメッセージを発信できる場でありたい。

卓上の議論で終わらずに、ただの願望で終わらずに、

リアルに実践できる場でありたい。

そんな想いの中、同志社大学で環境活動の受け皿となったのがDEPです。

グローバルな地球環境問題だからこそ、いろいろな分野に様々なアプローチがあるはず。

それは、地域から発展するモノであったり、生活から発信していけるものであったり。

身近な生活を豊かにするような、日々が楽しく充実するような…。

生活に変化を起こせば、コミュニティが変わります。地域が変われば、社会が変化します。

まずは身の周りのことから、良い方向へシフトチェンジしていく。

そんなきっかけをDEPは作り出せるのではないかと考えています。

学生だからできること、成長の可能性がきっとあります。

ここには自分達の想いを体現できる学生がいます。

同志社エコプロジェクト 2007 年度 リーダー 中村 祐希

## 同志社大学環境憲章へのアプローチ!!!

知っていましたか？同志社大学には現在、環境憲章またはそれに順ずるものはありません。私たちDEPでは「同志社大学に環境憲章を制定してもらう」ことを第一目的として、数ヶ月にかけて学生の立場から「同志社大学学生環境憲章」を作り、これを大学に提出しました。以下はその学生環境憲章です。ご覧あれ!!!

## 同志社大学 学生環境憲章

近年、世界中で環境問題に対する危機感や機運は高まり続けている。同志社大学では、このような現状と向き合い、1998年度「工学研究科 数理環境科学専攻」、2004年度「工学部 環境システム学科」、2007年度「同志社エコプロジェクト」設立など、環境に対する研究・教育を盛んに行ってきた。本学が日本屈指の教育機関、研究機関、そして地域社会に属する大学として、今後どのように環境問題に取り組んでいくのか、その姿勢を明確にするものがこの「同志社大学 学生環境憲章」である。本学の校名である「同志社」。これには「志を同じくする者が集まって創る結社」という意味がある。その名の下に、本学に関わる全ての者が志を一つにして次代へ向けて日々邁進している。環境問題に対しても高い志とそれに見合う知識・見識・胆識を持って取り組んでいくことを決意し、ここに「同志社大学 学生環境憲章」を定める。

2008年 2月29日 同志社エコプロジェクト 作成

## 基本理念

地球環境問題は人間社会の活動・発展が引き起こしている問題である。このことを念頭に置き、この「同志社大学 学生環境憲章」が大きな背景・動機・道筋となることを目指します。その中で本学が人間社会に対して大きく寄与できる3つの分野「環境教育」「環境研究」「環境保全」を柱として取り組み、それを理解、支援していくものとする。そして、これらの取り組みの成果をもって地球環境問題に対峙する人間社会に貢献していくことを基本理念とする。

## 方針

### ① 環境教育

本学では日々の授業や課外活動などあらゆる機会に環境教育を実践し、学生・教職員問わず環境問題に対して意識の高い人物を育む。それと共に、本学を離れても優れた見識を持ち、様々な立場から環境問題に取り組める人材を社会に輩出することを目指す。

### ② 環境研究

本学が有する研究機関と本学の学生や教職員が有する各分野の知識・経験を活用し、専門的な観点から具体的に環境問題にアプローチする。それと共に、実証した改善策・改革モデル・新たな技術を生産に提言していくことを目指す。

### ③ 環境保全

本学も地域社会の中における一つの大学であることを自覚し、本学が立地する四つのキャンパスを筆頭に、本学自身が優れた環境保全空間であることに努める。それと共に、周辺地域の環境保全・向上に地域社会と協力して取り組んでいくことを目指す。

# 同志社エコプロジェクト概要

同志社大学は、学生と共同で学内の省エネや大量のゴミ問題、あるいはキャンパスの緑豊かな自然環境を保全する効果的な施策を行うと同時に、大学として地球温暖化など世界のさまざまな環境問題に積極的に取り組むために、「同志社エコプロジェクト(DEP:Doshisha Eco Project)」を立ち上げました。

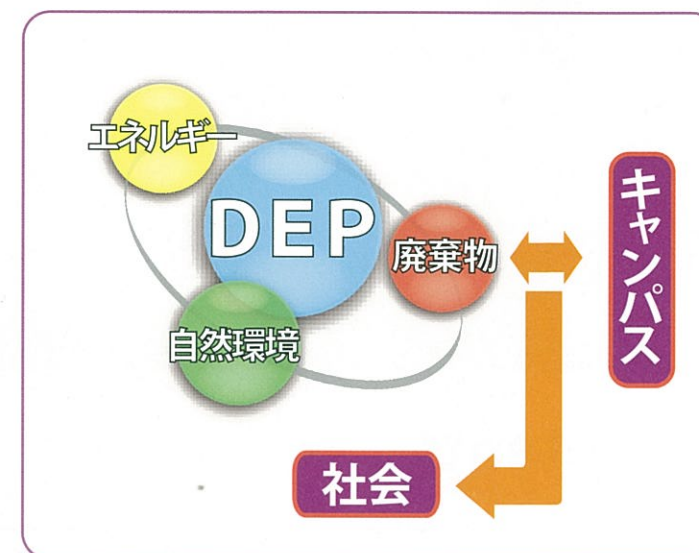
## DEPの理念と全体目標

### 理念

同志社大学という、学生・教職員にとっての教育・研究と、そして生活の場(ひとつのコミュニティ)における、「エネルギー」、「廃棄物」、「自然環境」に関する環境調査を実施し、問題解決に向けてアプローチします。また、これらの学内の環境問題に取り組むだけでなく、地球温暖化の防止や世界の環境破壊問題に対して、大学、学生としてどのように貢献できるのかを研究し、社会へ提言します。

### 全体目標

- 同志社大学のキャンパスをひとつの社会と捉え、実際の調査を踏まえた環境対策をキャンパス内でおこなう。
- 学生、教職員がエコキャンパス化によって実証されたデータ、経験、人材を社会へ還元する。



## コア活動紹介

### 廃棄物

現在、ごみは、家庭から出される大量の生活ごみから活発な生産活動にともなう膨大な産業廃棄物を含めて地球規模での環境問題となっています。産業廃棄物の不法投棄による自然破壊、水質環境の悪化、そして土壌汚染などの様々な問題を引き起こしています。また、日本では廃棄物の最終処分場が逼迫し、廃棄物問題が大きな社会問題となっています。そこで、DEP廃棄物班では社会の廃棄物問題へ対応していくために、大学内で廃棄物の3R(リデュース・リユース・リサイクル)モデルを確立し、地域や企業、行政団体などへ提案していき、社会システムとして還元していくことを目指します。

### エネルギー

現在、地球規模で考えなければならない最重要課題は、温室効果ガス排出が主な原因とされている地球温暖化です。この課題を解決するには、世界全体で温室効果ガスの排出を2050年までに半減、特に先進国は60%から80%減らす必要があります。この削減目標を達成するためには、まず化石燃料に依存するエネルギーのあり方やその使い方を見直すことが必要不可欠なのです。DEPエネルギー班は、このような地球規模でのエネルギー問題を視野に入れつつ、まずは自分たちの身近なエネルギー問題からアプローチしていきます。

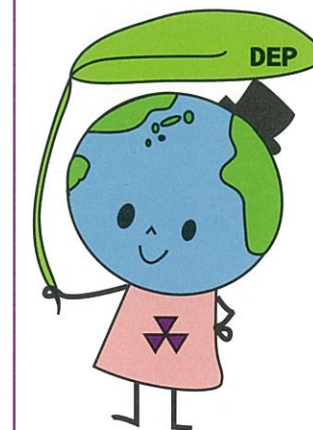
### 自然環境

地球温暖化は言うに及ばず、熱帯雨林の開発、砂漠化など、世界中で多くの環境破壊が発生しています。また、地球上には、生命の誕生以来、さまざまな生物種が生まれてきました。しかし、かつてないスピードで種の絶滅が起こっています。DEP自然環境班は、このような世界規模の自然環境保全の視点に立ちながら、まずは自分たちができる自然環境保全の課題に取り組みます。大学の豊かな自然環境の保全や地域環境の特性理解のため、京田辺キャンパスの自然環境を利用した環境啓蒙活動を行っていきます。そして、自然の現状を理解し、適切な自然保護対策を提案、実行します。また、学生や地域の生徒、住民との共同の環境学習の場としても活用できる里山の造成などを進めるとともに、地域や他大学、企業と連携していき、広範囲に活動を広げていきます。

## キャラクター

DEPメインキャラクター  
「あすみちゃん」

「あすみ」という名前には「明日美」「明日見」「Earth美」「Earth見」などDEPの活動方針を大きく、また広義に表しています。あなたの「あ・す・み」を探してみましょう☆



# 環境問題について考える。

## あなたは『COP』を知っていますか？

### COP 13の意味

2007年末、インドネシアのバリ島にてCOP13が行われた。この会議は、地球温暖化について話し、世界中の関心を集めるものであった。さて、みなさんはこの『COP』というアルファベットとそれに続く『13』という意味を知っているだろうか。

### COPで決まったこと

さて、COPの場で合意された重要な条約や決議に注目し、これまでの活動の軌跡を追うと、『ベルリン・マンデート』、『京都議定書』、『ブエノスアイレス行動計画』、『マラケシュ合意』の4つの重要な条約や決議が取り上げられる。

1. ベルリン・マンデート  
京都議定書(COP3)まで、COPに属する各国は温室効果ガス削減の具体的な数値目標を盛り込んだ議定書の発行を目指した。その第一回の会議(COP1)で、ベルリン・マンデートという決議が採択された。2000年以降の先進国温室効果ガス排出抑制および削減対策を、条約議定書またはその他の法的措置によって設定することを指令(マンデート)の形で定めたものである。

2. 京都議定書  
その後、1997年に京都で、COP3が開催された。そこで合意されたのが『京都議定書』である。京都議定書が今でも世界中で注目を集めるのは、この議定書が法的拘束力をもつ国際条約だからである。この議定書に定められた温室効果ガス削減目標を達成出来ない国は、次の約束期間において削減率に応じて不利益を被るといふことが明記されている。また温室効果ガスの削減方法として、共同実施、クリーン開発メカニズム、排出権取引の3つの制度、いわゆる京都メカニズムが盛り込まれたことも注目すべき点である。

3. ブエノスアイレス行動計画  
京都議定書が採択された後のCOPは、京都議定書や気候変動枠組条約で定められた規定や制度の実行のための詳細なルール設定や、具体的な運用方法についての議論が中心となった。COP4で採択された『ブエノスアイレス行動計画』では、今後2年間をかけてこれらのルール設定が話し合われることが決定された。

### COP13の意義

では、最新のCOPであるCOP13及びそこで合意された『パリロードマップ』について紹介する。

COP13では、世界各国から政治家や専門家、また多くのNGO・NPOが集まり、京都議定書の第一約束期間が終了する2013年以降の枠組みをどうするかについて話し合われた。そこで2013年以降

## COP (気候変動枠組条約) の歩み

COPx	開催年度	開催国/開催都市	条約または決議
COP1	1995年	ドイツ/ベルリン	ベルリン・マンデート
COP2	1996年	スイス/ジュネーブ	
COP3	1997年	日本/京都	京都議定書
COP4	1998年	アルゼンチン/ブエノスアイレス	ブエノスアイレス行動計画
COP5	1999年	ドイツ/ボン	
COP6	2000年	オランダ/ハーグ	
COP6 (再開会合)	2001年	ドイツ/ボン	ボン合意
COP7	2001年	モロッコ/マラケシュ	マラケシュ合意
COP8	2002年	インド/ニューデリー	
COP9	2003年	イタリア/ミラノ	
COP10	2004年	アルゼンチン/ブエノスアイレス	
COP11	2005年	カナダ/モントリオール	
COP12	2006年	ケニア/ナイロビ	
COP13	2007年	インドネシア/バリ	バリ・ロードマップ
COP14	2008年	ポーランド/ポズナニ	

参照:wikipedia(項目:気候変動枠組条約)

の枠組みを、2009年までに採択することが合意された。その合意が『パリロードマップ』である。そこでは、  
① 温室効果ガス排出削減に関するグローバルな長期目標の検討  
② すべての先進国による計測・報告・検証可能な緩和の約束又は行動  
③ 途上国による計測・報告・検証可能な行動  
④ 森林に関する計測・報告・検証可能な行動  
⑤ 小島嶼国などの脆弱な国への支援に関する国際協力  
などが考慮されることとなった。このパリロードマップには積極的な評価が与えられることが多い。一方で、EUなどが提示していた具体的な数値目標(2050年までに現在の温室効果ガスの40%削減)が入らなかつた点で、マイナス評価されることもある。一定の評価がされない現状は、地球温暖化問題に関する世界的枠組みについての困難さを物語っている。

### DEP JUNK...

世界のこのような現状を踏まえ、同志社エコプロジェクト(DEP)では、学生からも次代の地球温暖化防止の動きに対して何らかの提案をすべく、6月に『世界学生環境サミット in 京都』を開催する。世界10カ国以上から大学生を集め、地球温暖化防止に役立つ技術開発や「持続可能な発展」を実現するために学生は何か出来るのかなどを話し合う。そして、それらをまとめた『学生「議定書」』を2008年7月に開催されるG8サミット(洞爺湖サミット)などに提出する。社会的地位や経済的利益に振り回されずに進む学生ならではの提案に期待してほしい。

### 本文参照URL

- ・国立環境研究所 亀山康子「環境問題基礎知識 COPとは?」  
アクセス日:2008年2月19日  
<http://www.nies.go.jp/kanko/news/21/21-1/21-1-05.html>
- ・環境省 報道発表資料 2007年12月17日  
アクセス日:2008年2月19日  
[http://www.env.go.jp/press/file\\_view.php?serial=10668&hou\\_id=9178](http://www.env.go.jp/press/file_view.php?serial=10668&hou_id=9178)
- ・日経BPネット 2008年11月21日付け  
アクセス日:2008年2月19日  
<http://www.nikkeibp.co.jp/news/eco07q4>

### 用語解説

- [1] 共同実施  
先進国間で温室効果ガスの削減を図るシステム。
- [2] クリーン開発メカニズム  
先進国の技術移転などにより発展途上国の温室効果ガス削減を図るシステム。
- [3] 排出権取引  
温室効果ガスの削減枠をお金で売り買いするシステム。

## オープニングイベント

7月



## DEP初のイベント!

DEPの記念すべき第一弾のイベントとして、7月12日に京田辺キャンパスのローム記念館劇場空間にてオープニングイベントを開催しました。これはDEPを学生に広めることを目的に行いました。

昼・夜の部と2部構成で行われたオープニングイベントには、両部とも多くの学生が参加。メンバーがDEPの活動をプレゼンテーションしたり、元米副大統領のアル・ゴア氏が手がけたことでも話題を呼んだ映画「不都合な真実」を放映し、環境問題の現状を訴えました。同時に実施していた浴衣の無料貸出しは人気を博し、早くから着替えをすすめた学生は、浴衣で授業に出席してイベントへの参加を勧誘するなど大いに盛り上がりました。

また学内の意識調査の一環として、「エコとしてますか?」と題したアンケート



を作成し、学生に事前に配布しました。アンケートに答えてくれた学生には、ローム記念館1階にある軽食レストラン「ジョアミ」のパンと飲み物のプレゼントとうれしい特典も。両部合わせて約2000人もの学生が訪れ、アンケートも約150枚を集めることができました。

## こんなところでも:

オープニングイベントで行ったアンケート「エコとしてますか?」はこのイベント以外でも、授業での実施やサークルや部活に依頼して、さまざまな場での協力を求めました。また、ローム記念館や図書館など学生が多く利用する施設には、アンケート用紙と回収ボックスを設置することで、回収率の向上を目指しました。アンケート結果は本誌P17にて報告しています。

Doshisha Eco Project  
活動報告 2007

2007年度の同志社エコプロジェクト設立以来、私たちはこれまでにエネルギー調査やゴミ問題、環境保全など、日々さまざまな、イベント・活動を行ってきました。それらを通して自分たちが環境問題にいかに取り組んでいくべきか、という意識を高めることができました。私たちはこの一年で得た経験や反省を来年度の活動に向けて、最大限に生かしていきます。

## EVE

11月



パネルディスカッションではゲストの方々が勢揃い。熱い議論が交わされました。

**シンポジウム**  
第一部は3名のゲストによる基調講演です。ゲスト講演者は今まさに環境問題に先進的に取り組まれている本物の企業家の皆さん。30分という短い時間の中、すばらしいお話をいただきました。そして第二部では、基調講演のゲスト3名、さらに見山氏と加藤氏のお2人、さらにコーディネーターとして郡嶋孝先生（同志社大学・経済学部教授）と学生代表として竹田佑衣（DEP・社会学部3回生）を交えて「環境と金融」をテーマにしたパネルディスカッションを行いました。

11月25日、EVE前夜祭では、DEP初の環境シンポジウム「環境に対して私たちができること〜環境への想いを実現した企業家たちに学ぶ〜」を開催しました。シンポジウム参加者はなんと約250名で、同志社の学生以外に市民の方にも参加していただき大好評で幕を閉じました。さらに11月26〜28日には教室展示、エコメッセージ募集を行いました。

## 環境への想い〜ゲスト講演者より〜

更家悠介氏（サラヤ株式会社 代表取締役社長）

自社の歴史、販売されている「ヤシノミ洗剤」や低環境負荷商品等について、またそれによる生産地ボルネオでの環境保全について講演されました。学生に向けておっしゃった「変化はチャンス」という言葉は強い響きを持っていました。

柏原康夫氏（京都銀行頭取 社団法人京都モデルフォレスト協会理事長）

京都モデルフォレスト協会の理事として、京都の環境保全について、また銀行家としての環境への取り組み方について講演されました。「生活を守るのは第一次産業」という言葉に京都の文化と森林の共生の願いがこめられていました。

末吉竹二郎氏（国連環境計画 金融イニシアチブ特別顧問）

「経済」という観点から世界が環境問題に向けてどのように取り組んでいくべきなのかについて講演されました。最後に紹介された「地球は親から貰ったものではない。子供から預かっているのですよ。」という豪州原住民の言葉が印象的でした。

見山謙一郎氏（ap bank 理事）

Mr.Childrenの桜井さんのエピソードなどを紹介され、その話題に富んだ話口は来場者にも好評でした。物事を違う目線で見、感じて、発信できればそれは人の胸に深く刺さるという話は、見山さんならではのお話でした。

加藤久佳氏（関西電力株式会社 環境室環境計画グループチーフマネージャー）

環境問題と組織について話された加藤さんは、組織が一つのものをみんなが共通して持ち続けるために必要なものという質問に対して、3つのポイント「姿勢・実践・支援」が大切であるという独自の見解を話してくださいました。



環境に対するさまざまな想いが詰まった、色とりどりのメッセージパネル。

**シンポジウムアンケートより**  
シンポジウムに来場された方々にはアンケートにお答えいただきました。これらの回答は貴重な意見として来年のDEPの活動につなげていきたいと思えます。  
回答総数・約200名中、約97%の方に今回のシンポジウムは「参考になる」と答えていただけました。また96%の方が「良い印象を持った」とのこと、シンポジウムの成功を感じることが出来ました。特に「環境と経済のつながり・関わり合い」という主題には興味を持たれた方が多かったようです。多彩なゲストを呼んだことが大好評で、ゲストを選ぶ作業が最大のポイントであったため大変喜ばしいです。アンケートの回答をここで全て紹介することは出来ませんが、各人が様々な視点で環境問題に関して感じていただくことができたようです。「DEPに期待することは？」の項目では、シンポジウム・イベント・学内の環境対策が上位となりました。特に学内の環境対策はまさにDEPにしかできない活動です。これからさらになんばっていいと思います。

## ADAM祭

11月

11月3・4日、『日本一エコな祭』同志社京田辺祭2007・ADAM祭では、屋外テントにて、バイオディーゼル燃料（以下BDF）を使用する発電機と、発電機の燃料となるBDFを食廃油から精製する機械を導入しました。他にもローム記念館劇場空間にて、エコ度チェック、エコメッセージ募集、映画『風の谷のナウシカ』上映、パネル展示などを企画しました。

**次世代スーパー燃料・BDFを導入**

今回は株式会社セベックのご協力のもとBDF精製機を設置して食廃油からBDFを精製する過程を来場者に見学してもらいました。さらに精製過程から生まれる廃液では洗剤を作り、無料配布を実施しました。使用した食廃油は学生が日々利用している生協食堂から提供していただき、2日間でおよそ200リットルの廃油をBDFに作り変えることができました。

また、BDFを使用する発電機を導入して、ADAM祭での電力の一部をまかさないました。



**さまざまなエコ企画**

生活の中のエコ度合いがチェックできる『エコ度チェック』を実施しました。大人用と子供用の二種類で家族連れの方を中心にたくさんの方に答えていただき、生活の色々な場面でのちょっとしたエコを意識してもらうことができました。またエコメッセージを募集し、環境に対する想いを紙とペンで自由に書いていただきました。それらを一枚の大きな紙に貼り付けていくことで、色とりどりの想いが詰まったメッセージボードが出来上がりました。他にも映画上映やパネル展示などを通して、多くの方に『エコ』を身近に感じていただくことができました。

環境問題はとても深刻なものです。しかし私たちの普段の生活の中にさまざまなエコの芽は存在しています。ADAM祭を通して私たち一人ひとりが自分は何ができるか、を考えながら取り組んでいくことが大切であると認識できました。

## 里山保全活動



階段づくり

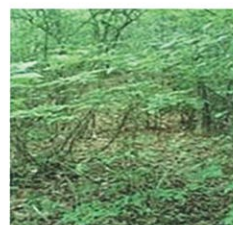
硬式野球場の裏から入る里山の入り口が急な斜面だったので、階段を作り安全に上り下りができるようにしました。チェーンソーで切った尖った杭を木槌で地面に打ち込み、隙間を石や土で埋め、平らにしていく作業です。

自然環境班の普段の活動の様子です。



## DEP 自然環境班による 里山活動 2007

- |     |          |                     |
|-----|----------|---------------------|
| 第一回 | (3月26日)  | 里山の下見、どこに道を作るかの決定   |
| 第二回 | (5月12日)  | ならの木やササユリの保護区域の確認   |
| 第三回 | (6月2日)   | 里山に道を作る作業の開始        |
| 第四回 | (6月23日)  | 里山の道を作る作業の続き        |
| 第五回 | (7月1日)   | 里山の階段作りの開始①         |
| 第六回 | (7月23日)  | 里山の階段作りの続き②         |
| 第七回 | (8月7日)   | 里山の階段作りの続き③         |
| 第八回 | (11月10日) | 里山の階段作りの続き④         |
| 第九回 | (12月8日)  | ササユリの保護区域の整備(竹林の伐採) |
| 第十回 | (2月2日)   | 階段付近の木を伐採           |

Before  
道づくり

After

尾根線沿いに生えている邪魔な枝や木を切って道を通れるようにしました。

DEPの自然環境班は現在、大学の自然環境の保全や地域環境の特性理解のため、工学部環境システム学科光田准教授の指導の下、大学内にある里山の保全活動を行っています。

里山林は人の手が加えられることで良好な状態を維持する森林です。管理が不十分であると、無造作に木が成長したり古い木が倒れたりして十分な光が入り込まず、暗い林になってしまいます。その結果、草木が植生することができず、土砂流出や生物多様性の低下を招き、里山が荒廃することになるのです。

近年、農山部の過疎化や都市部での土地開発のために里山の消滅や質の低下が顕在化していますが、同志社大学にある里山もその例外ではありません。大学の里山は絶滅危惧種に指定されているササユリが植生していることを始めとして、とても貴重な自然環境です。

私たちは、この自然環境を保護するとともに、学生や地域の子供たちが環境学習に利用できるように安全で豊かな里山を作ることを目指して活動しています。

## ecocon

## 12月

12月26・27日、国立オリンピック記念青少年自然総合センターで第5回全国大学生環境活動コンテスト(通称ecocon)が開催されました。全国から64の学生環境団体が集まり、DEPからは自然環境班5名と、工学部環境システム学科・光田准教授、事務局1名が参加しました。

ecoconとは?

1日目に参加団体が8つのグループに分けられ、各自の普段の環境活動を5分間のプレゼンテーションにまとめ発表します。その中から一番優れた1団体が選ばれ、2日目の最終選考に進みます。プレゼンテーションの後には環境分野で活躍する社会人選考委員と学生選考委員を中心とした参加者全員での議論・意見交換を行う時間が設けられ、多角的な評価がなされます。

さらなる向上をめざして

DEPは自然環境班の普段の活動である「里山整備」と「竹林被害」を食い止め、雑木林を復元していく活動に関するプレゼンを行いました。残念ながらDEPは2日目の最終選考には進めませんでした。選考の議論を通じて参加者がお互いの良い点を学び合い、より広い視野から自分達の普段の環境活動について振り返ることができました。

最終選考では、地域の人を巻き込みマイバツ



ク作り・ゴミ拾い等をした団体、ラジオを使って環境啓発活動を行っている団体等、学生らしい発想で社会・企業と密接に関わり活動している団体が競い合いました。どの団体の発表も最終選考にふさわしく素晴らしいものでしたが、グランプリに輝いたのは、環境クイズを提供する携帯サイト(エコトレ)を運営する団体(6類エコプロジェクト・環境クイズ作成委員会(東京大学))でした。

また、ecoconは、コンテスト以外にも交流会や分科会があり、社会人の方々や他の参加者との意見交換ができ、交流も深まりました。



グランプリの東京大学 6類エコプロジェクト・環境クイズ作成委員会のプレゼンの様子。



# 見山謙一郎氏

## 独占インタビュー

あのap bankの理事にDEPメンバーが直撃！

持っておきたいと思いました。僕は立教大出身なんですけれど、社会人大学院というのが立教大にできて、そこで欧米流の戦略論を勉強しようかなと思ったんですよ。ただ、実際大学に入って勉強して、欧米のやり方と日本のやり方って明らかに違うなって感じました。だから、欧米のことをそのまま受け入れてやっていても仕方ないなと思いました。それで、日本のものは何だろうって考えた時に、日本の企業がどういう生い立ちで成り立ってきたのかということがすごく大事ななところなんです。そこまで遡って考えないと戦略が出て来ないな。例えば、ある日から急に「自分たちはこういう戦略でやります」といってもそれは難しいけれど、自分たちの過去の歴史に沿う形で、それに準ずる形で今から戦略を立てていくと、たぶんすごく効果的な戦略が打ち出せるかなと思っただけです。日本はもともと資源がない国という制約条件のもとにあって、そういった制約条件を克服してきた歴史なんです。結局それが環境に対して優しいということにつながるんですけれど、トリプルボトムラインって聞いたことがあるかもしれないですけど、CSRって考え方って、社会・環境・経済っていうのが3つのボトムラインなんです。この3つのアプローチがあって、これは一般的に言われていることなんですけれど、社会的なアプローチっていうのは、例えば貧困とか格差の問題のことで、ヨーロッパ型の企業が力を入れるアプローチって言われているんですね。なぜかという、植民地支配



質問をするDEPメンバーとそれに答える見山さん

の反省があったから。それから、経済的なところに軸足を置いてCSRを考えるのはアメリカ型といわれています。なぜかという、資本主義の中心にある国だから。環境に対して軸足を置いてCSRを考えるっていうのは、たぶん他の地域にはない日本独自のものかなと僕は思うので、日本の国際競争戦略っていうのは環境を基点として考えていくのがいいんじゃないかなと思ったのが、環境を意識するまず第一のきっかけですね。それが一つ目です。これ、もっと短く言わないといけない(笑)。それで、2つ目は、今、自分も子どもがいるんですが、自分が子どもの頃っていうのは、四季っていうのは五感で感じていたような気がするんですね。例えば、自転車でこいで肌にあたった風の感覚とか、一歩踏み出した時に「しゃり」と音がする音を踏んだ

—今日、これから時間程度インタビューさせていただきますので、よろしくお願います。

(見山) よろしくお願います。

### 見山さんとap bank

—まず、見山さんはap bankの理事をされていますが、それはどういう職業なんでしょうか。

(見山) そうですね。職業というか役割としては、やっぱりap bankってアーティストが中心の団体であって、僕らはそれを裏方で支える職業というのが端的に見えることだと思います。あとは、そうですね…もともと僕は銀行員の出身なので、社会とのつながり方とかが社会を通じて、いろいろわかっている部分もあるんですね。そういう経験を生かして、アーティストたちの想いを実現できるように僕はそのサポートをするという位置づけです。今、企業とか行政とかいろいろな所が今環境の問題というものに行き詰ってきているというのを僕自身も感じていて、アーティストの力を使ってそこを補うというか…要するに、お互いに関係しあうことで新たな化学反応を生み出す、そのような可能性をap bankで持つて持っているなと思います。それを僕らは「ap bankがプラットホームになっているところ」と結びつけていくというんですが、行政や企業がどのようにつながっていくか、企業・

行政はどういったところで行き詰っているか、それに対して、自分たちがどういうことができるか、常日頃考えて僕は活動しています。もちろん、そのap bankのベースになる融資の部分は、しっかりやっていかないといけないので、そこは日常の管理から、融資の審査から、自分が中心になってやっています。

—(見山)さんは、融資とアーティスト、環境と社会をつなげる役割であるということですね。

(見山) そうですね。

—では、住友銀行(現三井住友銀行)からap bankの理事に転職されたということ、そこに転職するに至った経緯とか動機を聞かせてください。

(見山) 二つあると思っています。もともと僕の父親が公務員だったということで、公的な仕事に対して憧れがあったんですね。父親と同じ土俵では聞かないけれど、自分も違うところで公的な仕事をやってみたいということ、銀行を選んだんです。そうしたときに、銀行に公的資金が入って、とにかく利益を積み上げて公的資金を返す原資を作らなきゃいけない、銀行の自由がなくなったような時期があったんですね。そういった中に僕はいて、自分は想いを持ってこの仕事をやっているけれど、私企業のエゴで、利益だけ得られれば何やってもいいんだというところに、若干違和感を持ちました。もしかしたらどこかで銀行とケンカしてしまうかもしれないと思っただけですね。その時に自分としての選択肢を

## 環境と社会をつなげる存在、それがap bank

—感覚とか新芽の匂いを感じられる感覚とか、そういったものを感じて、五感を駆使して感じていたけれど、今の子どもたちってそういうことってあまりないんじゃないかなと思っただけです。自分の子どもが朝起きてやるのは、テレビをつけて「今日何度かな」というのをテレビで見て、デジタルな情報で「〇度」って出るとその感覚で暖かいか寒いとか、自分のその日に着る洋服を決めるみたいなことがあったので。やっぱりそういうのってどうなのかなって。だんだん環境の意識っていうのが、人間として退化してきちゃうんじゃないかなとすごくそういう危機意識を持ちました。もっと日頃から自然を意識するようにな、そういう教育を自分もしていきたいと思っただけ、そういうことが世の中でも子どもたちに求められているんじゃないかなと思っただけ、2つめの動機ですね。だから、仕事を通じてのこと、私生活のこと。

感覚とか新芽の匂い

—それがap bankっていうところは、可能性があると感じたのですか。

(見山) そうですね。僕は大学院が終わった時に、その2年間って自分にとって充実している、自分の仕事っていうものを客観視することができたなと感じました。だから、それで終わってしまったのはもったいないなと思って、友人と「じゃあ環境をテーマにしてNPOを創ろうか」という構想に至ったんですね。どういうNPOかっていうと、環境問題への取り組みって行政も企業もやっているし、NPO・NGOもやっているけれども、何かみんなが仲良くやっている感じがなかった。そこで、友人と「じゃあ環境をテーマにしてNPOを創ろうか」という構想に至ったんです。自分たちは通訳のNPOを創って、そこから自分たちは通訳のNPOを創って、すくやれるのではないかなと思っただけです。だんだん環境の活動をしている、面白い活動をしている人たちがつながっていったらいいなと思っただけです。その友人は朝日新聞に勤めていて、たまたま彼がap bankの小林武史(音楽プロデューサー)を取材したことがあって、「連絡先知ってるから連絡してみよう」と言っていて、連絡したら会えました。初めて会った時に自分たちが考えていたことを伝えたら、まさに小林も考えていることが同じだったんですね。それで意気投合して、気がついたら、僕は外から支えるはずが、中に入っていたんですね(笑)。そんな感じ



—実際つないでいるなと感じるような場面はありますか。

(見山)これは不定期でやっているんですけど、eco-resoミーティングです。基本小林が入って、たまに櫻井(Mr. Chii-drenボーカル)も入ってたりすることもありますが、eco-resoミーティングっていろいろあるテーマを決めて、いろいろなセクターの人に集まってもらって。それこそNPOなりNGOなり、企業なり行政なり。それで、例えば、エネルギー問題に対してNPO・NGOの人が「政府はなっていない」とみたいな話をしたときに、実際政府でその政策をやっている人も呼んで、そういう人にもその場で発言してもらったりできて、これはeco-resoでできているなど。

—面白いですね。

(見山)ですよね。なかなかそういう場ってないと思うんですよね。

—そういった活動を続ける想いとか自分自身の教訓、根拠があるのですか。

(見山)何でしょうね。…最近いろいろ小林と話をしている、2つのことに行きつくんですけど、それが想いとスピードなんです。小林にしても僕にしても櫻井にしても全部同じで。アーティストと並べるのはよくないんですけど、小林、櫻井もそれぞれアーティストとしての想いをもってやっている。それで、僕は僕で、自分の経験を通じて想いを持ってこの活動をやっている。それぞれがそれぞれの想いを持って、やり遂げたいという、

ういう気持ちでやっている活動ですよ。スピードといったのは、ただ単に想いをもって、成功事例みたいなものを世の中に示していくことができたらいいなと思ってるから。それはやっぱり短期的な目標だと思っ



ap bank fesのスタッフTシャツを着てのインタビューには見山さんも爆笑。「それ僕のバジマなんですよ(笑)」と見山さん。

活動を通して

—「環境」というものを、見山さん自身がわかりやすく伝えるために心がけていることがあれば教えてください。

(見山)そうですね。環境っていうのは唯一の処方箋がないというか、すごく多岐にわたるものだと思います。例えば、アーティストのU2のボノが行っているプロダクトREDっていうのがあるんですけど、あれはエイズやマラリアなどの撲滅のために基金を出してワクチンを配るといってプロジェクトなんです。エイズとかマラリアなどの疫病関係のものは、ワクチンを多く配ればそれだけ多くの人が助かるという、そこだけやっていけば必ずそこに届くというものなんです。でも、環境ってどこが入り口でどこが出口かもわからないものなので、すごく多岐にわたっているんですよ。だからそれを全部網羅するのはおそろしく無理だと思えます。これは僕がap bankで学んだことなんですけれども、「実感に落とし込む」という言葉をよく使います。要するに、実感しないと行動にはつながらないということ。さっきの右脳と左脳の話とよく似ているんですけど、頭で考えていても難しいなっていうことが頭の中でぐるぐる回って、実際行動にはなかなか移らないかもしれない。やらなきゃいけない

—始められるということですか。

(見山)今準備中です。いろいろ関係各所と調整中のプロジェクトがあります。

—それは誰でも参加できるんですか。

(見山)そこも今調整中なんです。(笑)

—それでは、ap bankの最大の魅力とは何だと思えますか。

(見山)これはみなさんが感じていることと全く同じだと思っただけで、やっぱりアーティストがこういうことを始めたということですよ。アーティストの才能を公的な部分に対して、しかもそれを多くのイベントで使っていくというプロジェクトって今までそれほどなかったと思うんですよ。やっぱりアーティストの持っている影響力というのは、本当にすごい可能性を持っているなと思います。それで、この間ちょっと話をしたことでいうと、左脳と右脳という考え方があって、左脳は論理的な思考とかロジックに落ちているもの、右脳は直感的な発想だと思えます。そこで環境問題をやるということになると、本業の利益の追求の部分とかいろいろ行き詰るところがあると思うんですよ。例えば、行政でも「チームマイナス6%」っていう目標を掲げてやっているけれど、いま浸透しないので止まってしまう。論理的な思考で物事を考えて、そこまでは絞り込めたけど、そこから先はどうやっていくか、そこを突破することがなかなかできないのは、やっぱり左脳だけで考えてしまっているか



いんだってというのは、たぶん頭より心で感じていることだと思っただけで、その心で感じ取ることが必要なのかなと思います。これは何でもいいと思うんですよ。実感

いい空間で好きな音楽を聴くっていうことはそれだけですごく吸収するものだと思います。それから、環境を考えると、食って、うのは外せないものだけれど、オーガニックフードとかで「環境にいいんです」とか「ごちゃごちゃ言われても、」そうですか「っていいじゃない。けれど、食べてくださいっていわれ食べると「なるほど」って思うことがあったりする。そういうことだと思っただけで、だから、自分で体験できたりするようないい環境があるといいのだらうなって、それが一番伝えやすい、伝わりやすいことなのかなというの、僕自身もap bankでの活動を通じて学んだことです。

—最後に、見山さん自身が残したいと思う環境があったら教えてください。

(見山)残したいと思う環境…。漠然としていけるけれど、やっぱり日本って四季があるから美しい国だと思っただけで、四季がポーダレスになるとつまらないなと思います。やっぱり四季はそれぞれあったほうがいいなと思います。

らだと思えます。右脳っていうのは感性とか心で感じるということ、そこは従来のビジネスの中ではなかなか出てこない発想で、今まさに求められている発想だと思っただけで、例えば、機能よりもデザインとか、論理よりストーリーとか、あと個より調和みたいなものですね。そういうふうな統合的に物事を捉えていくっていうのは、右脳の発想だと思えます。一緒にいてよくわかることなんです。アーティストってそれがすごく長けているんですよ。たぶん今、時代がアーティストな感性とか、そっちの方向に向いているのかなと思っただけで、そういう意味で、僕はそこをすごくap bankの可能性を感じています。

—社会も今それを求めていると。

(見山)そういう時代なのかなと思います。

—そういうap bankという団体の活動の根幹である融資活動について聞かせてください。

(見山)融資ってすごく難しいものだと思うんですよ。助けてあげたいという気持ちで融資をする。けれど、もしそれが返済されなかったら、その人も傷つくし、自分たちも傷つく。想いとかもすごく大事なものである一方で、お金が循環して戻ってくるかどうかということも併せて考えないといけない。だから、ある程度、専門的な知識というのが必要だと思えます。預ける側もそうなのだけれど、結局「いいことやっていきます」というので集めるのは限界があって、実際どういうところに融資をして、どういう結果が出たかというのをちゃんと世の中に示していく。そういった

—具体的にはありますか。

(見山)僕はたかが時が好きな人なんです。(笑)。夕焼けのね、あの微妙な感じ。車を運転していても、そのくらいの時間になると泣きそうになるくらいじーんときます。何というか、自然じゃないと絶対作れないような色のコントラストとかが昔から好きなんです。たそがれですね(笑)。今事務所が麻布十番にあるビル8階なんですけれど、六本木ヒルズが見えるんですよ。その六本木ヒルズとかの夕焼けもすごくきれいですよ。

—ありがとうございます。

(見山)ありがとうございます。

環境を心で感じよう。

時代が右脳的な発想を求めている

見山 謙一郎
1967年東京都生まれ。大学卒業後、住友銀行(現三井住友銀行)に入行。金沢文庫支店、人形町支店、東京営業第二部長代理を経て、2005年10月本店営業第一部長代理を最後に退職。2005年11月に有限責任中間法人AP/バンク理事COOに就任。
<ap bank> http://www.apbank.jp

# アンケート『エ～コとして

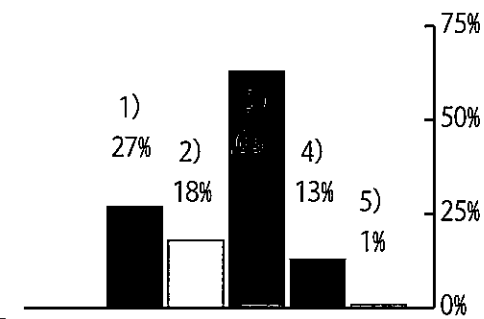
DEPでは2007年7月、学生向けに大学内の環境問題に関するアンケート「エ～コとしてますか？」を実施協力して下さった皆さん、本当にありがとうございました。

# てますか？』集計結果

しました。オープニングイベントや大教室での授業後など、合計で524人のみなさんに答えて頂きました。

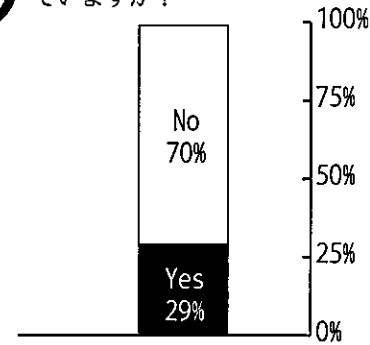
① いらなくなった紙(印刷を失敗したものや、もう使わない授業のレジュメなど)をどうしていますか？(複数回答可)

- 1 捨てる 2 回収BOXに入れる 3 メモ用紙にする  
4 印刷の裏紙にする 5 その他



「メモ用紙にする(63%)」、「回収BOXに入れる(18%)」、「印刷の裏紙にする(13%)」と多くの方が有効活用しているようです。「捨てる」の人は27%でした。

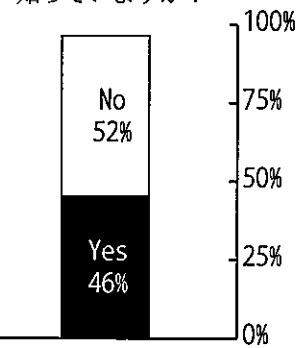
② パソコンのNアップシステムを知っていますか？



Nアップについては70%の人が「知らない」と答えていました。講義の配布資料などでもNアップが使われていますが、知名度は低いようです。また66%の人が「使いたい」と答えていました。Nアップをすることで、紙の量だけでなく印刷料金も抑えることができます。

## 紙ごみについて

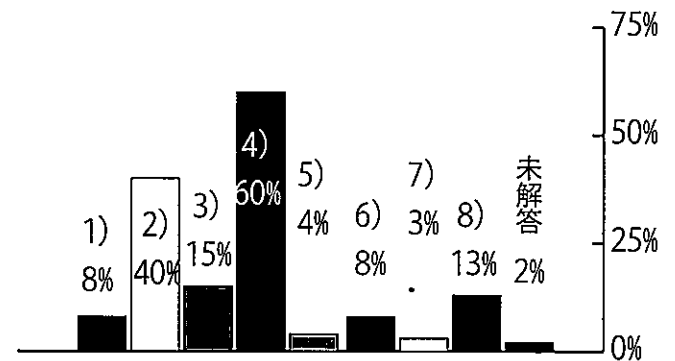
③ パソコンの両面印刷の仕方を、知っていますか？



両面印刷については半数以上の方が「知らない」と答えていました。その方法が分かる人が「実行したい」と答えていますが16%の人はその方法に不満を感じています。

④ 同志社大学のエネルギーの使い方でご気になるところはありますか？(複数回答可)

- 1 トイレの照明 2 空き教室の照明 3 夜間の照明 4 エアコン  
5 エスカレーター・エレベーター 6 Doorsの待機電力 7 その他  
8 特に気にならない

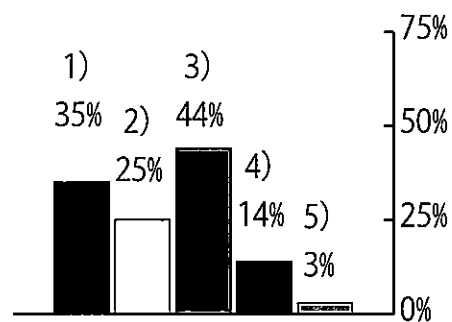


やはり、一番気になるのは学生にもっとも関係する「エアコンの使い方(60%)」や「空き教室の照明(40%)」でした。照明関係全体では63%にまで及んでいました。

エネルギーについて

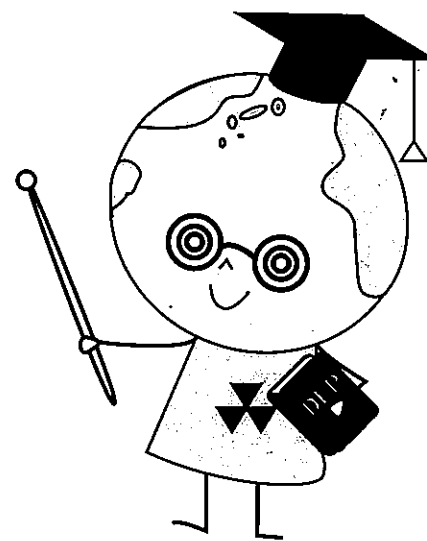
⑤ 大学で出る弁当ごみ(容器・袋・割りばしなど)についてどう思いますか？(複数回答可)

- 1 もったいない 2 美観を損ねる 3 多い 4 特に何も思わない  
5 その他



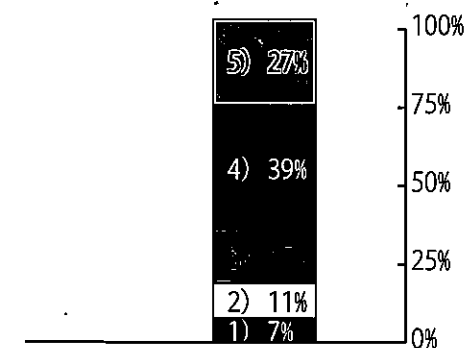
「多い(44%)」、「もったいない(35%)」、「美観を損ねる(25%)」などあまりいい印象はないようです。弁当ゴミを減らすためには、「まずは自分から」が大切です。

弁当箱について



⑥ 大学内のエアコンの温度は適当だと思いますか？

- 1 そう思う 2 少しそう思う 3 どちらともいえない  
4 あまりそう思わない 5 そう思わない



「そう思う」、「少しそう思う」の合計は17%で、「あまりそう思わない」、「そう思わない」の合計は66%でした。問1と同様に、半数以上の方が学内のエアコン設定温度にたいして不満を持っているようです。

最後に  
全体的にみると、エアコンの最適温度や両面印刷の方法、Nアップなど、知らない人が半数を超えていることから、エコに関する知識や活用方法はまだまだ十分ではないという結果が読み取れます。しかしながら感想欄に「アンケートを書くにあたって改めて「ここまでエコについて考えないといけない」と気づきました。」と書いていた人もいました。環境問題は一人一人がちょっとした気にかけることで、かなり変わっていくものです。  
この結果を踏まえてDEPは新たな対策や啓蒙などの活動を展開してまいります。その模様は公式広報誌「でつづつ」や年間報告書を通じて発信していきたいと思っておりますので、これからも応援・協力をお願いします。

14:00	
15:00	帰宅途中 買い物
16:00	
17:00	晩御飯
18:00	
19:00	
20:00	後片付け
21:00	
22:00	就寝

と〜っても簡単! My-Tシャツ de My-eco バッグを作ろう!

1、まずはTシャツを切り  
ます。チョキチョキ...



2、Tシャツの裾を縫います。  
eco バッグの底部分になります♪



3、袖部分を縫って持ち  
手の部分を作ります。



4、出来上がり!

コサージュも作っ  
ちゃいました☆



エコバックで買い物へ Let's go!!



○→エコクッキングは買い物か  
ら始まっていますよ。野菜は包  
装の少ないものを choice!!  
→ビニール包装の無いばら売り  
の玉ねぎを買いました。



○→ビニール袋お断り!! 買い物カゴに  
「お断りカード」を入れて、商品はマイ  
バッグへ。ポイントカードにスタンプ  
も押ししてもらいました♪このようなシ  
ステムがいろんな場所で広まるといい  
ですね。

エコ cooking で美味しい晩ご飯

近藤君の本日の献立  
\*ビーフシチュー  
\*水餃子 (エコ cooking)



今日のメインディッシュはビーフシチュー。材料を無駄  
なく使って、もう一品。キャベツの芯、にんじんの皮、  
大根の葉をひき肉と混ぜ、ギョーザの具を作ります。



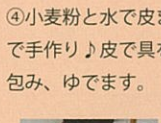
①用意した野菜の切れ  
端を全部みじん切りに  
します。



②ボウルに刻んだキャ  
ベツの芯とにんじんの  
皮を入れて...



③さらに大根の葉を  
ひき肉と投入して、  
手で混ぜます。



④小麦粉と水で皮ま  
で手作り♪皮で具を  
包み、ゆでます。



⑤エコ cooking で手  
作り水餃子の完成!!  
いただきます〜!!

食器洗いも環境にやさしく .v.v.

○→後片付けまでエコクッキングは続きます。使った食器  
を洗う前に、お皿についた汚れは古布で拭き取ります。洗  
剤の使用量と、汚水の排出量がずっと削減できて、これは  
とってもエコですね。



電気とエアコンを消し、パソコン、テレビの電源を  
切って、おやすみなさ〜い (p\_+) zZ...

近藤君お疲れ様でした★これからもエコ life で充実した大学生活を送ってくださいねっ p(^-^)q

皆さん! いかがでしたでしょうか? 目から鱗な情報がありましたか? それとももう実行していましたか? 是非、友達や身の回りの人にも教えてあげてくださいね。  
確かに一人暮らしで出来るエコなんて小さいことです。すごく小さいことです。でも、私たち DEP はこれを行おうとする気持ちこそが一番大きな物であると信じています。

DEP 広報部 企画制作チーム一同

新入生必見!!!

エコな一人暮らし提言 ~ある先輩の一日 @京田辺~

皆さんは普段生活しているときに「環境」って考えていますか? 特に一人暮らしを始める新入生のみならず、たてさえ大変な一人暮らしにそこまで頭が回りませんよね。ここでは、ある一人の同志社大学生一日密着を通して、「やって楽しいエコな一人暮らし」を提言します。これを見ている皆さん! ページはこのままに部屋に戻ってエコポイントをチェックしてエコクッキングにチャレンジです! ご参考あれ。

Profile

近藤 陽 (コンドウ アキラ) 工学部 2 回生

仙台から出てきて、1 人暮らし暦は約 2 年。初めは生活するのに精いっぱいだったが、現在は余裕も出てきて、エコな一人暮らしにチャレンジしています。DEP の里山班リーダーや環境系和みサークル e-cycle の 3 代目代表を歴任。田んぼや里山が好きな近藤君は、普段の生活からエコを意識しているそうです。現在の悩みは後輩にもあそばれること。なお、彼女募集中。



7:00

起床

おはようございます☆  
ということで、始まりました! 1 日密着。  
今日はこれから近藤くんの 1 日に密着し、どれだけエコな生活が出来ているかを見ていきますよ!!



8:00

洗顔  
洗濯

エコチェック START!

✕→早速アキラくん減点です、ついついしがちな水の出しっぱなし。洗面器に水を溜めてから顔を洗いましょう!

○→ホースとポンプを使ってお風呂のお湯を洗濯で再利用しています☆これはすばらしい。面倒なことでも、ちょっとした思いやりでエコな暮らし



9:00

朝食

○→下宿生ならついつい買ってしまいがちな飲み物ですが、外へ出かけるときは水筒持参でしっかりエコしましょう!!



○→スイッチ式コンセント外出するたびにコンセントを抜くのは大変...そこでスイッチ 1 つで小まめに節電! スイッチ ON のコンセントにだけ電気が流せる優れ物。みなさんも使ってみてはいかが



10:00

自宅出発

11:00

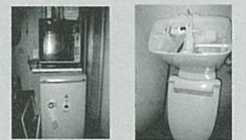
12:00

13:00

さて、ここで近藤くん宅にエアコンを発見。アパートによってエアコンは備え付けだったりしますが、暖房器具の定番、エアコン・こたつ・ホットカーペットの中ではいったいどれが一番エコ家電なのでしょう?

こたえは...  
1 番はこたつ。

2 番はホットカーペット、そして 3 番目はエアコンです。ホットカーペットはなんとこたつの約 2 倍の CO<sub>2</sub> を排出していて、エアコンだと約 2.5 倍にもなるのです。アキラくん宅はエアコンなので...エコ家電では ✕ ですね。友達とこたつでわきあいあい和むのもエコなのですよ!!



さらにエコ生活の提案!!  
上の写真を見てください。  
冷蔵庫・トイレの 2 つをもっとエコに利用するにはどうしたら良いでしょうか?

まずは、冷蔵庫の上に物をのせない! 熱の放出を妨げるので、余計なエネルギーがかかってしまいます。  
そして、トイレのタンクにペットボトルを入れよう! ペットボトルの体積分の水を節約することができます。

アキラくん、もう一工夫! △

次期美人編集長

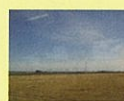


- ①高野恵理子
- ②袋田の滝 (茨城県)

③企画

- ④汚水の排出量を減らす努力をしています。(中略) エコと節約WでHappyです♪
- ⑤自分にもメリットが返ってくるようなお得で楽しいエコlifeを、読者の皆さんに広めていきたいな、と思っています。一人の小さな心掛けにも、地球の未来にとってちゃんと意味があるから。「じゃあ... (以下熱い想いは続く...)

だまれ!初代編集長

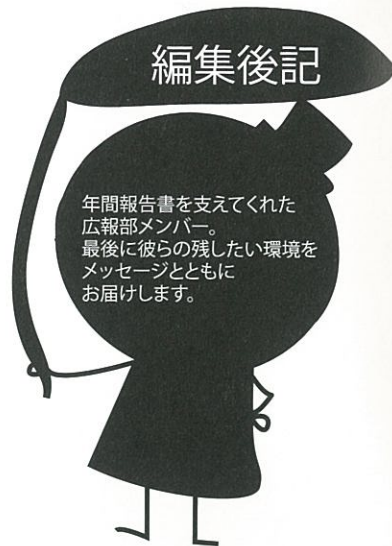


- ①小林楓子
- ②風車 (???)

③見山氏インタビュー、活動報告

- ④ヤシノミ洗剤使ってます☆
- ⑤自分にとって本当に「DEPな一年」でした。こんなわがまま編集長に最後まで付き合っていたら広報部のみなさん。お疲れ様でした!

- ①名前
- ②未来に残したい環境 (写真)
- ③担当記事
- ④私の日常エコ自慢
- ⑤この一年を通して



来年のDEPに期待してください!

ap bankラブ



- ①中村祐希
- ②法然院 (京都府)

③リーダーの言葉

- ④使い捨てではなく自分だけの大切なモノを使ってこ!と思ひ、手縫い着入れのMY着持参
- ⑤DEPは大学の環境活動の可能性を広げたと思います!DEPのネットワークはすばらしい!このメンバーとの繋がりを大切にしたい。

マザーオブ広報



- ①久保菜穂
- ②与論島 (沖縄県)

③企画

- ④Nアップ&両面印刷好き♪ いかにか印刷枚数を抑えるかいつも考えます!
- ⑤広報の仕事は何もかもが初挑戦でんでこまいな時もあつたけど、楽しいメンバーと仕事ができよかったです♪ イラレがんばるぞー!0A

デザインクイーン



- ①森川恵
- ②紘の森 (京都府)

③デザイン

- ④ものは何でも大切に使っています、良いものを長く使うというのが私のエコ第一歩です。
- ⑤身近に取り組めるエコに貢献したい、そんな想いが強まるばかり。次は行動あるのみです。

高速仕事人



- ①木原千幸
- ②与論島 (沖縄県)

③活動報告

- ④授業のレジュメはもちろん両面印刷☆
- ⑤DEPに入って感じたこと、それは、「学生」はエネルギーと可能性に満ちた存在であるということです。
- 何でもできる一からツくれるこの経験は プライズレス

ナチュラルムードメーカー



- ①中尾給美
- ②近所の小川 (京田辺市)

③企画、活動報告

- ④早起きをして、電気をつけずに太陽の光を利用して活動する。
- ⑤環境に関する知識が増えると同時に、充実した日々を送ることができました。

テクニシャン



- ①橋本明英
- ②ある畑 (e-cycle)

③アンケート報告、DEP概要

- ④レジ袋拒否!
- ⑤いい経験も残念なこともありました。

校正の鬼(でしゃばり)



- ①鈴木一登
- ②ふるさと(心)

③企画、環境憲章、活動報告

- ④水筒を持ち歩いています☆
- ⑤でしゃばり4年生!今日も行く!! そんな一年でした。鬼のような編集長に苦しめられましたが、かわいい後輩に癒されました。

文章はくどいぜ



- ①松田雄高
- ②大切な仲間 (情報道場)

③環境トピック、活動報告

- ④新しいペットボトルは買いません。
- ⑤環境というものに主体的に取り組み始めた記念すべき一年でした。

# 今後のお知らせ



## エネルギー班

学内のエネルギー調査をもとに生協と協力して、「フードマイレージ」と「CO2の見える化」という2つの企画の2009年度実施に向けて準備を進めていきます。

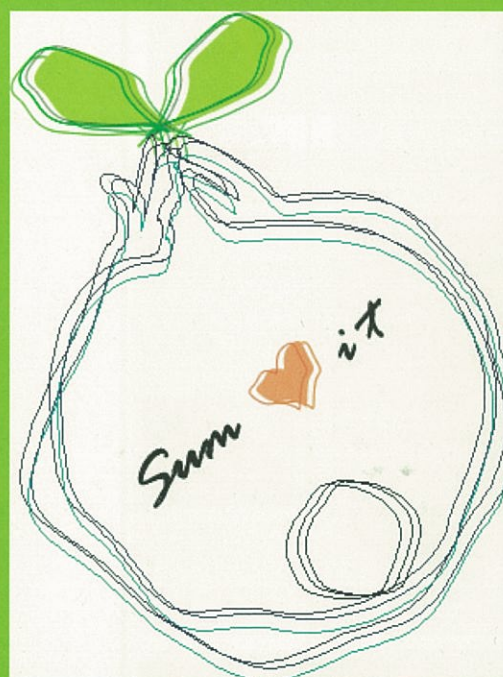
## 自然環境班

5月10日に地域の親子を呼び、同志社大学京田辺キャンパスの裏山で筍料理や間伐体験を通した里山の勉強会を開催します。また、7月以降にも学生・地域・大学・企業で連携をとり、イベントを行う予定です。

## 廃棄物班

DEPは大学内で廃棄物の3R (reduce・reuse・recycle) モデルを確立させ、社会に還元していくことを目指しています。今年は学内で、廃棄当容器の削減やリユース意識の定着に向けた活動を行っていく予定です。

# 世界学生環境サミット in 京都 開催!



来たる6月20日~22日の3日間、京田辺・今出川の両校地をメイン会場に「世界学生環境サミットin京都」が開催されます。現在、私たちDEPのメンバーが中心になって、他大学の多くの学生と協力して準備を進めているところです。このサミットは、「持続可能な発展」を主なテーマとし、その下に2つの分科会を設け議論を行います。また、学生ができる取り組みの提案も行い、明るい未来の実現に向けての第1歩とします。そして、このサミットを通じて形成される学生の枠組みを未来に継承し、私たちが葡萄の枝のように世界で繋がっていくことを目指します。

世界学生環境サミットin京都実行委員会



2008年4月

# 新プロジェクト始動!メンバー大募集!!

1年間、学生と産業界、地域が連携して、「デジタルコンテンツ」を製作する「同志社ローム記念館プロジェクト」。DEPもこのプロジェクトを2008年度より開始することになりました。2008年、取り組むコンテンツは、「映像」です。けいはんな地区でケーブルテレビ事業を展開されている「株式会社KCN京都」さんのご指導の下、「本物の映像番組」の製作を行っていきます。また、ISP(インターネットプロバイダ)事業もされており、「WEBサイトによる情報発信」もミックス。DEPはより広範に情報発信し、活動展開していくこととなります。メンバーは随時、募集中です。興味のある方はいつでも連絡してください。

あなたの街のケーブルテレビ【KCN京都】 <http://www.kcn-kyoto.jp/>  
同志社ローム記念館 <http://roh.drm.doshisha.ac.jp/>